

Patentfield の機能評価と活用方法

強みと留意点 最新動向 知財実務での運用提案

調査基準日 2026 年 10 月 17 日

GPT-6 Astra

Patentfield は、特許の検索・分類・読解・可視化をつなぎ、大量の特許を継続的に扱う業務で力を発揮するサービスです。特に、**SDI**、競合分析、**IP** ランドスケープ、**FTO** の候補抽出・一次スクリーニングで、有力な選択肢と評価できます。

優れているのは、生成 AI の回答を得るだけでなく、検索母集団、公報原文、分類結果、分析図を行き来できる点です。賢く使うには、検索の網羅性、AI による処理、人による判断を、それぞれ設計することが重要になります。

本稿は公式製品情報、操作マニュアル、更新履歴、導入事例、NEDO 資料を基礎に、確認できる機能、提供会社の性能主張、実務上の評価・運用提案を区別して整理しています。評価は公開情報に基づくもので、有料環境での実機比較試験による結果ではありません。本文の角括弧番号は文末の参考文献に対応します。

Patentfield の機能は、それぞれの役割を分けて理解すると使いどころが明確になります。

機能	主な役割	実務上の位置づけ
プロフェッショナル検索	キーワード、分類、出願人、日付、法的状態などの組合せ	調査範囲を説明できる母集団の構築
AI セマンティック検索	技術説明や公報を起点とする類似文献の探索	検索語の発見、周辺探索、読む順番の設定
AI サマリー	事前作成された要約・分類の表示、検索、集計	大量文献の概要把握
AI 分類予測	人が用意した分類例を使う文献の仕分け	継続的な SDI、自社分類の展開
Patentfield AIR	指示に応じた要約、抽出、分類、技術構成比較	案件ごとの調査・分析
マップと PF レポート	検索結果や分類結果の可視化	競合比較、技術動向の説明
API 連携	外部システムからの検索・分析機能等の利用	社内ツール、AI エージェントとの連携

検索・可視化・AI 分類を備える基本サービスに、生成 AI による案件別処理を担う AIR などのオプションが加わる構成です。AI サマリー、AI 分類予測、AIR は役割が異なります。[1][2][3][4][5]

最も高く評価できるのは、調査担当者の判断を、大量処理と継続運用につなげられることです。

第一に、検索方法を組み合わせやすい点です。自然文から類似特許を探し、見つかった文献から用語や分類を確認して検索式を整え、検索結果を類似度順に読む、といった往復ができます。対象特微量も選べるため、同じ課題を解決する文献と、請求項の構成が近い文献を分けて探索できます。調査目的に応じて検索の観点を換えられる点が実用的です。[6]

第二に、過去の調査結果を次回に生かします。AI 分類予測では、関連・非関連や技術分類を付けた教師データを使い、作業グループごとにモデルを保存できます。公式説明では教師データは最大 1 万件、予測対象は最大 10 万件です。毎回同じテーマを追う SDI では、担当者の過去の仕分けを再利用できる価値が大きいと考えます。[3]

第三に、AIR の結果を原文と照合しやすい点です。AIR は最大 1 万件の検索母集団に対する一括処理に対応し、結果を通常の検索画面で公報と併せて確認できます。分類結果はマップ分析に利用でき、Excel 出力も可能です。ここでいう最大 1 万件は処理対象集合の上限であり、全件の全文を一度の推論で読み切る保証とは区別して理解する必要があります。[4]

第四に、研究開発部門に説明しやすい分類軸を作れます。AI サマリーは用途・課題・効果・特徴を整理し、用途や課題の分類を分析に利用できます。これに自社独自の分類を加えれば、IPC 別件数から一歩進んで、どの顧客課題を、どの技術で解決しようとしているかという説明に近づけられます。[2]

第五に、社内の仕組みに組み込めます。API は公報情報の参照に加え、検索や AI 分類などとの連携を想定しています。コニカミノルタコネクトによる社内調査支援アプリケーションの開発・運用事例も紹介されています。利用者が増えた段階で、社内の依頼受付や調査結果共有の仕組みに接続できる点は、継続利用上の強みです。[5][7]

性能を示す数字は、何を測った数字なのかを確認して読む必要があります。

公開されている説明	評価できる点	読み取れないこと
AI 検索の適合率が従来比約 3.8 倍 [8]	検索上位のノイズ低減への改善	全分野での優位性、再現率、取りこぼしの少なさ
AIR による時間削減が最大 65% [4]	文献処理の効率化余地	人による修正・検証まで含む一般的な削減率
コニカミノルタ系の事例で 30～40%の工数削減 [9]	SDI の実運用における効果	最新 AIR 単独の効果、他社での同等効果
AI サマリー連携で入力テキスト量を全文の約 1/45 に圧縮 [10]	大量分析の費用と処理時間の抑制	法的判断に必要な細部がすべて保持されること

これらは提供会社の説明や掲載事例に基づく数値です。特に適合率の向上と再現率の向上は別の話であり、FTO や無効資料調査では、この区別が欠かせません。

導入事例には、ほかにもピクシーダストテクノロジーズの会議中の探索・共有、はくばくの可視化した情報の社内共有があります。ここから読み取れる価値は、作業時間の削減に加え、知財情報を研究開発

の議論に持ち込みやすくなることです。利用者評価は提供会社が掲載する事例が中心であり、独立した横並び比較によって他社より高精度とまでは判断できません。[9]

直近の更新では、生成 AI の強化と並行して、調査の基礎機能が改善されています。

時期	確認できた更新	実務上の意味
2026 年 9 月	検索式エディタの入力補完や構文検査を強化	複雑な検索式の作成・修正を支援
2026 年 9 月	出願人の英語表記を統制	国をまたぐ企業別集計の表記ゆれを低減
2026 年 10 月 1 日と 5 日	パレート図、伸長率バブルチャート、サンキー図、組み合わせ分析などを追加	集中度、成長、技術の組み合わせを説明
2026 年 10 月 7 日	日本の審査記録に基づく引用分析を拡充	引用先、カテゴリー、時期を組み合わせで探索
2026 年 10 月 14 日	同義語辞書、グラフ編集、訂正後の請求項、類似度による検索結果の打ち切りを追加	検索の再利用、報告、権利内容の確認を支援

更新時期と機能は公式変更履歴によります。[11]

知財実務上の価値が大きい機能の一つが、訂正後の請求項の確認です。日本の審判公報を取り込み、出願・付与・訂正の請求項を切り替え、並べて確認できます。ただし、訂正されなかった請求項を補って現行の全請求項を再構成する仕様ではありません。また、訂正後請求項の Excel 出力は 10,240 字までとされます。FTO で利用する場合は、表示・出力された文章だけで請求項が完結しているかを確認する必要があります。[12]

もう一つが、引用関係を使った権利活用候補の探索です。自社特許が、どの企業の出願に対して、どのカテゴリーで引用されたかを追えます。自社技術に接近している企業を見つける入口として有用です。ただし、引用された事実から、相手製品の実施や侵害が直ちに導かれるわけではありません。[13]

今後の方向性は、調査工程全体の AI 支援と、特許分野に特化したモデルの開発です。

2026 年 9 月の知財・情報フェアに向けた発表では、次の二つが参考出展として示されました。[10]

開発と展示内容	公表された方向性	利用時の確認事項
独自 LLM D シリーズ	特許分野に特化した自社モデル	参考出展・開発段階として評価
AI 検索サポート 仮称	同義語・分類の提案、検索式の作成・改良、公報・図面の読解、集合の整理	正式提供範囲、料金、提供時期

正式提供の範囲は契約前の確認事項です。参考出展の内容を、現在の AIR にすべて実装済みの機能として扱わないことが重要です。

この開発の背景には、GENIAC-PRIZE で技術新規賞を受賞した先行技術調査支援システムがあります。同社の説明では、請求項を構造化し、証拠となる記載を探して対比する構成で、特許関連データによる専門モデルの学習や、外部 API を使用しないローカル構成に取り組んでいます。受賞システムのローカル構成と、現在の商用 AIR の提供方式は分けて理解すべきです。[14]

NEDO の成果概要では、当該官公庁領域の 1～3 位は該当なしとされています。技術新規賞は将来性を評価する材料になりますが、それ自体が調査精度で首位、あるいは審査官を代替できるという証明ではありません。[15]

API 連携では、2026 年の展示案内に MCP を利用した知財 AI エージェントの構築事例も登場しています。今後は AI が検索案を作り、人が確認し、AI が実行・分類し、人が重要文献を判断する利用が広がる可能性があります。これは公開された開発方向に基づく見立てです。MCP の事例紹介は、標準契約で直ちに接続できる完成済みサービスの提供を意味するものではありません。[16]

実務で利用する際は、収録範囲と AI の判断範囲を明確にする必要があります。

- ・収録国数と全文を読める範囲を分けます。DOCDB による 100 以上の国・地域の書誌情報と、各国公報の本文、翻訳、AI 処理対象は同じ範囲ではありません。国・年代・公報種別ごとに確認が必要です。原文と日本語機械翻訳でも更新頻度が異なるため、海外の最新動向を日本語だけで追う場合は収録時差に注意します。[17]
- ・検索対象が AI サマリーか原文かを意識します。2025 年 9 月末から検索・表示の初期設定が AI サマリー基準に変更されています。探索には便利ですが、要約に現れない数値範囲、材料、限定事項などを探す調査では、原文の検索対象・特徴量を明示的に選ぶ必要があります。[18]
- ・AI のスコアをそのまま除外理由にしません。類似度による打ち切りは探索の効率化に役立ちますが、重要文献の取りこぼしを許容しにくい調査では、打ち切り条件を記録し、別方式の検索を併用します。AI 分類予測では対象言語・特徴量によって予測できない文献があり、スコアの 0 が無関係を意味するとは限りません。[3][6]
- ・名寄せと企業グループ統合を分けます。英語表記の統制は有益ですが、企業グループ全体の統合や権利移転の追跡を全面的に行う機能ではありません。競合企業の分析では、子会社、買収先、共同出願先を別途整理します。[19]

業務ごとに AI に任せる工程を変えると、効果を引き出しやすくなります。

以下は、確認した機能を踏まえた運用提案です。機能の自動実行範囲を保証するものではなく、調査目的に合わせて人が作業手順を設計することを前提としています。

業務	Patentfield で重点的に行うこと	人が重点的に判断すること
SDI	新着収集、分類、優先順位付け、課題と解決手段の抽出	重要案件、競合の変化、社内対応
FTO	候補集合の構築、請求項に基づく一次仕分け、対比材料の整理	現行請求項、製品仕様との対応、権利状態

業務	Patentfield で重点的に行うこと	人が重点的に判断すること
無効資料調査	構成要素別探索、引用追跡、根拠段落の抽出	記載の組み合わせ、公開時期、論理付け
IP ランドスケープ	自社分類、企業と時系列の集計、代表文献の抽出	市場情報との統合、事業上の意味
発明発掘と出願前調査	近接技術の抽出、相違点と未解決課題の整理	技術的成立性、実験計画、出願方針
権利活用	被引用先と技術近接企業の探索	製品実施の確認、交渉可能性

継続業務では、SDI から始めると効果を測りやすいと考えます。

過去に人が判断した公報を使い、次の順で進めます。

- 1 関連・非関連だけでなく、判断に迷った文献も集める。
- 2 学習用と評価用を分け、類似する同一ファミリーが両方に入らないようにする。
- 3 AI 分類予測で読む順番を付ける。
- 4 AIR で重要候補の技術内容と根拠を整理する。
- 5 人の修正を教師データや分類定義に反映する。

管理すべき指標は、削減時間に加え、重要文献の見落とし、判断保留率、再読・修正時間です。重要文献が低順位や除外側に落ちないことを先に確認します。

SDI の出力も要約だけで終えず、次のような列をそろえると競合分析に発展させやすくなります。

出力項目	利用目的
公報番号とファミリー識別情報	重複を整理し、根拠に戻る
自社製品と開発テーマ	社内の担当へつなぐ
課題 解決手段 対象部位	技術の変化を別軸で集計する
請求項に記載 実施形態のみ 判定不能	権利内容と技術説明を分ける
根拠となる請求項 段落 図	人が確認する
前回までと異なる点	新しい動きを抽出する
推奨する確認作業	読んだ後の行動につなぐ

例えばポンプ分野なら、省エネルギー、騒音、シール、制御などを同じ階層に混在させず、課題、解決手段、対象部位を別軸にすることが重要です。分類設計は、AI のモデル選択とともに分析の質を左右します。

FTO では、技術的な類似性を探す工程と、請求項への該当可能性を検討する工程を明確に分けます。

製品全体の説明だけで類似検索すると、用途が同じ文献に偏る可能性があります。製品の構成・材料・工程・制御などに分解して検索し、分類・キーワード・引用関係も使って候補を補完したうえで、請求項ごとの対比に進む方法が適切です。

AIR による技術構成比較を利用するときも、AI が出す関連性が低いという結果だけで除外せず、どの請求項を読み、どの製品仕様を前提に、どの構成が対応しないとしたかを確認できる形にします。AIR の技術構成比較は、発明・請求項と文献の比較を支援する機能であり、そのまま完成した FTO 鑑定になるものではありません。[4]

IP ランドスケープでは、概要把握、自社の問いに合わせた分類、重要文献の原文確認を組み合わせます。

AI サマリーで大きく把握し、AIR で自社の問いに合わせて分類し、重要文献を原文で確かめる使い方が合理的です。例えば A 社はどの技術に注力しているかという広い問いを、次のように具体化します。

- ・直近で増えている顧客課題は何か。
- ・その課題を解決する技術が、従来とどう変わったか。
- ・出願件数の増加は、ファミリー数の増加を伴っているか。
- ・主要な出願国や共同出願先に変化があるか。
- ・自社の事業計画と重なる領域はどこか。

PF スコアも補助指標として使えますが、設定したロジックに基づく値です。財務的な特許価値や事業への貢献額と同一視せず、比較する企業・期間・分野で算定条件をそろえる必要があります。[20]

特許データから得た推測を経営提言に進めるときは、製品情報、設備投資、提携、論文などで裏付けます。AIR ではインターネット情報を含む分析支援も案内されていますが、特許が示す事実、外部情報による補強、分析者の仮説を分けて記載する運用を勧めます。[10]

料金は基本プランだけで判断せず、必要なオプションを付けた総額で比較すべきです。

公開料金の主な例は次のとおりです。金額は税別で、調査時点の公開表示に基づきます。個別の契約条件は見積時に確認してください。[8][21]

プランとオプション	公開料金	確認したい点
BASIC 個人事業主向け 1ID	月払い 1 万円／年払い 10 万円	利用資格と必要オプション
Mini 1 法人向け 1ID	月額 2 万円	対象者向け割引あり
Corp-XS 5ID	月額 3 万円	複数部門での利用を想定
Patentfield AIR	月額 3 万円～／1ID	モデル、処理量、入力と出力量
日本語横断検索	月額 1 万 5,000 円／1ID	海外原文の機械翻訳を使う用途
AI サマリーグローバル	基本アカウント料金の 30%	Corp 限定、全契約 ID への適用

AI サマリーグローバルと日本語横断検索は、検索する文章が異なります。前者は日本語の AI 要約・分類を中心に使う機能、後者は海外公報の機械翻訳文を使う機能です。概要把握と、請求項・実施例の細かな検索では、必要な契約が変わります。[21][22]

通常の検索結果の Excel 出力は標準で 1 回 1,000 件までです。大量出力は分割するか、上限増加オプションを使います。AIR の最大処理件数と通常検索の一括出力上限を混同しないことが必要です。チーム利用では、検索条件・タグ・教師データなどの共有にもオプション条件があります。[23][24]

セキュリティとサービスの継続性に関する情報も、現在の内容で確認します。

同社は ISO/IEC 27001 と 27017 の認証を公表しています。AIR の公開説明では原則としてモデル提供者の API を利用し、利用者が保有する API キーを使うプランも案内されています。未公開発明を入力する場合は、利用モデル、送信先、保存期間、削除方法、契約上の取り扱いを具体的に確認するのが適切です。学習に利用されないことと、外部に送信・保存されないことは異なります。[25][26]

過去の比較資料を使う場合には、訴訟情報の更新が必要です。パテント・インテグレーションとの特許権侵害訴訟について、Patentfield は、2026 年 4 月 17 日に調停に代わる決定の確定と残りの事件の取下げにより、全事件が終了したと公表しています。現在も係争中と記載するのは不適切です。一方、公表内容から勝敗や非公開の合意条件まで推測することはできません。[27]

導入や活用を具体化するなら、過去に結論が分かっている SDI 案件と FTO 案件を一つずつ使う検証を勧めます。

検証項目	確認方法
検索の取りこぼし	既知の重要文献をどの検索経路で回収できるか確認
AI 分類の品質	学習に使わなかった文献で人の判定と比較
根拠の正確さ	指摘された請求項・段落が実際に結論を支えるか確認
作業時間	設定、処理待ち、再読、修正、報告まで通算
費用	必要オプションとモデル利用量を含めて計算
継続性	別の担当者が同じ条件で作業を再現できるか確認

調査設計や評価基準を組み立てられる専門家にとって、最初に整備すると価値が大きいのは、業務別の検索条件、分類定義、AIR の指示、原文確認項目を一組にした標準手順です。まず一つの技術テーマでこの手順を完成させ、翌月の SDI や別案件でも再利用できる形にすると、Patentfield の強みを引き出しやすくなります。

参考文献

参照日はすべて 2026 年 10 月 17 日です。更新型の製品ページと操作マニュアルは、その時点の内容を参照しています。資料名は内容を識別しやすいよう一部を説明的に表記しています。

[1] Patentfield 株式会社

詳細検索画面。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/詳細検索画面>

[2] Patentfield 株式会社

AI サマリー概要。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/ai サマリー概要>

[3] Patentfield 株式会社

AI 分類予測。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/ai 分類予測>

[4] Patentfield 株式会社

Patentfield AIR 生成 AI 調査 分析オプション。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://product.patentfield.com/air>

[5] Patentfield 株式会社

API 連携。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/api 連携>

[6] Patentfield 株式会社

AI セマンティック検索。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/ai セマンティック検索>

[7] Patentfield 株式会社

API を利用した調査効率化事例 コニカミノルタコネクスト登壇ウェビナー案内。2024 年公開。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://patentfield.com/news/260>

[8] Patentfield 株式会社

Patentfield パテントフィールド AI 特許分析プラットフォーム 製品と料金の案内。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://product.patentfield.com/>

[9] Patentfield 株式会社 evort 掲載

AI 特許検索 分析プラットフォーム Patentfield 機能と活用事例。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://evort.jp/presenters/patentfield/platform>

[10] Patentfield 株式会社 PR TIMES 掲載

Patentfield 「2026 知財・情報フェア&コンファレンス」出展のお知らせ。2026 年 8 月 31 日。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000067.000025380.html>

[11] Patentfield 株式会社

変更履歴一覧 2026 年 9 月と 10 月の更新を参照。日付は各更新項目に記載。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/変更履歴一覧>

[12] Patentfield 株式会社

審判情報 訂正後の請求項。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/審判情報-訂正後の請求項>

[13] Patentfield 株式会社

引用分析 JP 被引用の詳細 被引用種別 被引用年月。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/引用分析-jp-被引用の詳細-被引用種別-被引用年月>

[14] Patentfield 株式会社 PR TIMES 掲載

Patentfield 経産省 NEDO 主催 GENIAC-PRIZE 官公庁の審査領域における生成 AI 開発にて特別賞 技術新規賞を受賞。
2026 年 4 月 24 日。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000063.000025380.html>

[15] NEDO GENIAC-PRIZE 事務局

GENIAC-PRIZE 2025 年度 成果報告と審査結果。2026 年公表。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://geniac-prize.nedo.go.jp/archive/2025/results/>

[16] Patentfield 株式会社

関西ファクトリーイノベーション Week 2026 出展のお知らせ。2026 年 4 月 24 日。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://www.patentfield.com/news/315>

[17] Patentfield 株式会社

収録範囲 Coverage 公報 書誌 法的状況 日本語機械翻訳の収録情報。随時更新。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://en.patentfield.com/coverage>

[18] Patentfield 株式会社

検索や表示の初期設定が AI サマリー基準に変更されている。変更日 2025 年 9 月 30 日。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/検索や表示の初期設定が ai サマリー基準に変更されている>

[19] Patentfield 株式会社

出願人横断 英語 統制。2026 年 9 月の仕様変更を説明。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/出願人横断-英語-統制>

[20] Patentfield 株式会社

PF スコア。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/pf スコア>

[21] Patentfield 株式会社

AI サマリーグローバルオプション。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/ai サマリーグローバルオプション>

[22] Patentfield 株式会社

日本語横断検索。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/日本語横断検索>

[23] Patentfield 株式会社

エクセルダウンロード。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/エクセルダウンロード>

[24] Patentfield 株式会社

作業グループ共有設定。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/作業グループ共有設定>

[25] Patentfield 株式会社

会社概要 認証規格の記載。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://patentfield.com/service>

[26] Patentfield 株式会社

Patentfield AIR 生成 AI 調査 分析オプション サポート資料。日付表示なし。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/patentfield-air-生成ai調査-分析オプション>

[27] Patentfield 株式会社 PR TIMES 掲載

パテント インテグレーション株式会社と当社との間の特許権侵害訴訟の終了のお知らせ。2026 年 4 月 17 日。参照日 2026 年 10 月 17 日。
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/0000000062.000025380.html>